

日本一暑い多治見から遮熱舗装で海外挑戦

——リサイクルタイルでヒートアイランド対策——

社名	(一社)多治見建設業協会 岐阜県多治見市下沢町3-17-1
代表者名	理事長 前田 重宏
創業年	昭和24年2月設立
会員数	29社

1. 事業着手のきっかけ

2007年8月16日多治見市は日本最高気温40.9℃を記録
多治見商工会議所を中心に温暖化対策の検討がはじまり、多治見の産業界に温暖化対策の機運が高まる。

2. 事業実施の経緯

2008年6月多治見商工会議所において名古屋工業大学の「太陽熱反射都市冷却理論」に基づく地場産業のリサイクルタイルを使った遮熱舗装の開発をはじめ。

2009年5月東濃温暖化対策協議会発足「建設業と地域の元気回復助成事業」採択
「クールアイランド舗装」開発

2011年4月「建設企業の連携によるフロンティア事業」採択

2011年5月マレーシア工科大学（UTM）事前協議のため渡航

「UTMとの共同研究」妥結

2011年11月マレーシアでの試験舗装、実験場舗設

2012年2月「UTM学生によるマレーシアでの実験結果発表」於：多治見

2012年5月マレーシアでの今後の展開の交渉のため渡航

3. 工夫・苦勞した点

建設業協会会員による開発のため、開発員の時間を合わせるのが難しい。

取り組みに対する建設業協会会員の温度差がある。

製品の性能と価格のバランスをとるため製品バリエーションを増やした。

名工大「太陽熱反射都市冷却理論」に基づく製品群の協議会「クールワールド連絡協議会」を立ち上げ連携しての営業展開をしている。

マレーシアとの交渉に時間感覚の差があり、早めの進行がいる。

4. メリットと成果

業界活動としての会員に対する建設業協会の意義の発揮ができています。
日本一暑い多治見ゆえ、夏季はマスクミに連日取り上げられる。
各発注者のご理解により着実に施工実績の積み上げが出来てきている。
熱帯でも性能の証明が出来た。
マレーシアに進出の足がかりをUTMが窓口となってきている。

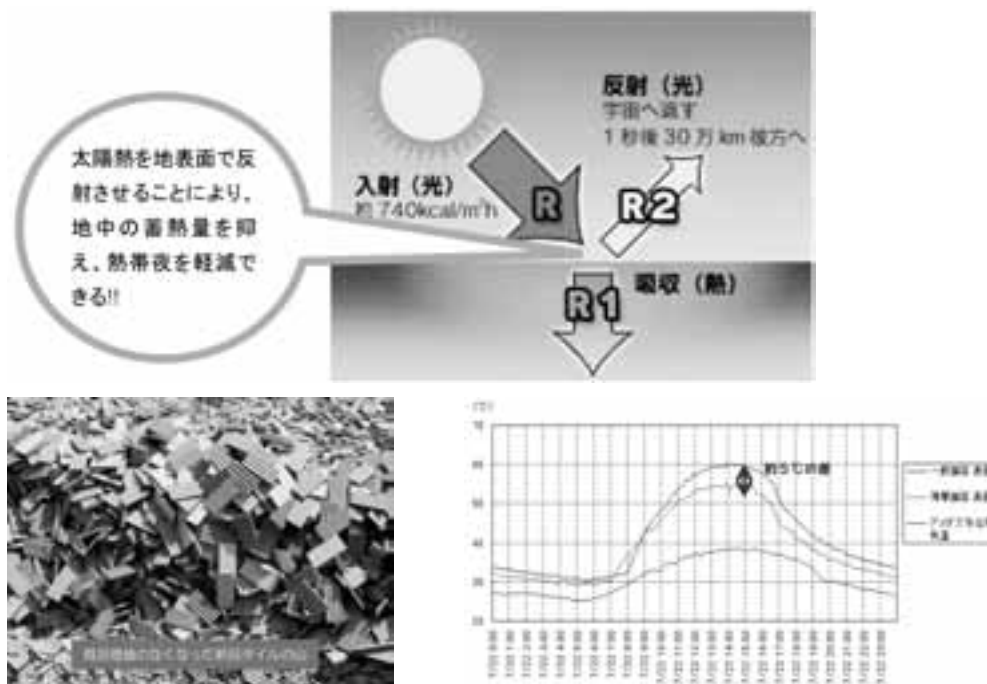
5. 今後の課題・問題点

顧客の性能に対する価格の理解が薄いため、営業力が弱い。
価格競争力の強化。
地元を中心にした実績作り。
共同研究による特許取得が必要である。
マレーシアでのマレーシア工科大発営業展開の方法の模索。
協会運営の限界に来るので、出資者を募った事業展開になってくる。

問い合わせ先

会社名 (株)藤本組 担当者氏名 松島祥久(よしひさ)(代表取締役)
所在地 多治見市小田町5-1 Eメール matusima@fujimoto-gumi.co.jp
電話 0572-22-3165 URL <http://www.tohno-eco.jp/>

名古屋工業大学の太陽熱反射都市冷却理論の仕組み



第Ⅲ部 新しい建設業に挑戦するトップランナー



Construction of Cool-Pavement (UTM)

